西京極 粘りの連覇 PK戦、紫光破る

PK戦の末、2連覇を決めて喜ぶ西京極イレブン(西京極陸上競技場)

サンガカップ 第40回 京都少年サッカー 選手権大会

最終日は4日、京都市右京区の西京極陸上競技場で行われ、決勝は西京極ジュニアサッカークラブが0―0からのPK戦の末、京都紫光サッカークラブを破り、2連覇を果たした。

3位決定戦は京都大宅サッカースポーツ少年団が2―1で京都城陽サッカークラブを破った。

一丸守り勝つ

西京極が粘りの守備で2連覇を達成した。前後半各20分と延長10分間、紫光の猛攻をしのいでPK戦に持ち込むと、GKに入ったMF石渡ネルソン主将が相手の5本目のシュートを止めて勝利を決めた。主将は「(2人目のキッカーとして)自分が外してしまったので止めてやろうという気持ちだった」とほっとした様子で話した。

DF2人が出場停止という苦境の中で決勝を迎えた。守備のキーマンを担ったのは、本来は得点源となるFW小野杏二選手。中盤の下がり目に位置し、献身的に動いた。「相手の方が技術はある。(前線ではなく)バックで頑張って、勝ててうれしい」と語った。

絶えず自陣深くに攻め込まれても、GK鎌田晟尽選手が体を張った守備を見せ、得点を許さなかった。大森公裕監督は「きっちり守って少ないチャンスをものにする試合になると思っていた」と振り返り、「チームのためにハードワークができる選手たち。よく我慢した」とねぎらった。(伊藤恵)

▽決勝
西京極 0 0 0 0 0
紫光 0 0 0 0 0
(PK4―3)

▽3位決定戦
大宅 2 1 1 0
城陽 1 1 1 1

ベストイレブンは次のみなさん。

鎌田晟尽、平山瑛大、石渡ネルソン(以上西京極)吉岡心、本郷寧勇(以上城陽)馬場康晴、吉田遥海、立川大翔、安藤友敬(以上紫光)竹内勇希、喜多壱也(以上大宅)

敵陣に攻め込む紫光の立川選手(9)と吉田選手(11)

好機生かせず 紫光

紫光は多くのチャンスをつくったもののゴールを割れず、PK戦の末に敗れた。MF山野太陽主将は「もっと早くに点を取って勝ちたかった」と悔しそうに語った。

序盤からMF吉田遥海選手やFW安藤友敬選手らが積極的にシュートを放ち、相手ゴールを脅かした。一方で西京極の堅い守備に苦しみ、長谷川佳弘監督は「攻撃に時間がかかり過ぎた」と振り返った。

今季は全日本少年大会の京都大会決勝で西京極を破って本大会に出場。サンガカップも計22得点、1失点と強さを見せつけて勝ち上がってきた。長谷川監督は「選手はモチベーション高くやってくれた。次につながれば」と前を向いた。

持久力強化が奏功

○…3位決定戦は、1―1の後半終了間際に大宅のFW喜多壱也主将が中盤からドリブルで運んで決勝点を挙げた。「今までもこういう展開の試合が多かったので、落ち着いてプレーできた」と喜んだ。

昨季は終盤に競り負ける試合が目立ったといい、今季は走り込みで持久力を培った。喜多主将を含む3人は大文字駅伝の選手に選ばれるほどに。前半に先制点を挙げた竹内勇希選手は「この大会で初めて得点できた。うれしい」と笑顔を見せた。元日本代表の松井大輔選手らを輩出してきた伝統あるチーム。笠原直樹監督は「一対一では負けても他の選手がカバーした。よう頑張った」とたたえた。

城陽・吉岡心主将「先制点を取られたけど、しっかり声を出し、1点を取り返せたことはよかった」

3位決定戦で懸命にプレーする大宅(右)と城陽の選手たち

宝ヶ池大通・暖炉が灯るカフェ
Coffee/Restaurant トルフ DORF
Foodies Cafe ニフティー
トルフ☎075・722・2367 ニフティー☎075・722・2370